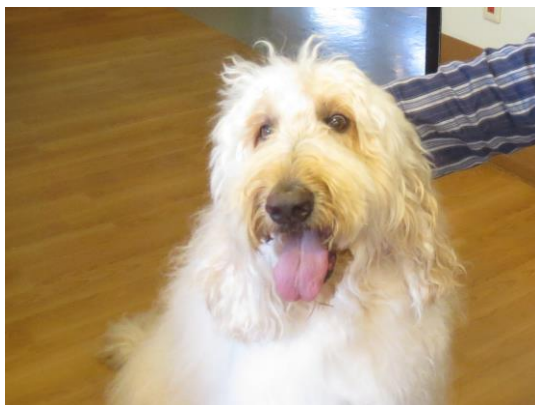


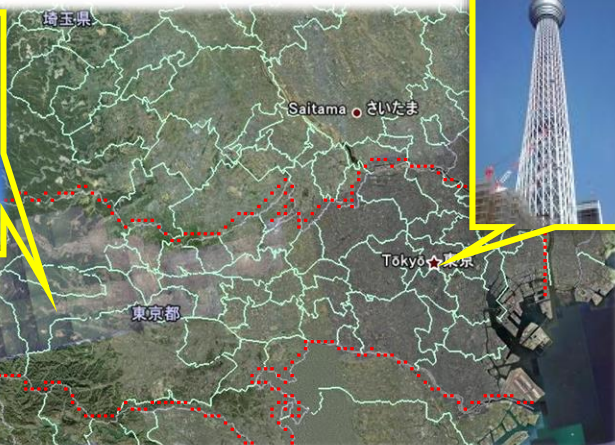
チームアプローチによる退院支援を目指して ～セラピードッグによる効果検証～



医療法人財団利定会 大久野病院

○志賀 康弘・菊田 美保子・橋本 明子・内田 順子・
山田 祥子・岸下 結花・森松 静・進藤 晃

大久野病院の紹介



回復期リハビリテーション病棟	50床
医療療養病棟	50床
介護療養病棟	58床

はじめに

- セラピードック → 癒しの効果 ストレスの緩和 活動性の向上
海外 → 患者自ら犬に触れ、犬に話しかけ、犬と共に
歩くことにより心理的な改善効果や前向きな
姿勢を生み出していることが立証
- 当院 → 患者やその家族に安らぎを与える
目的離床による機能維持と向上

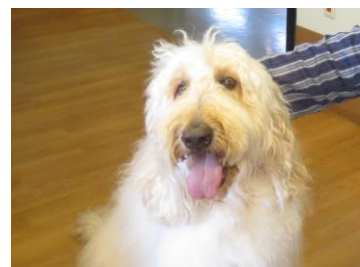
ふれあいを持った患者

ふれあいを持たない患者

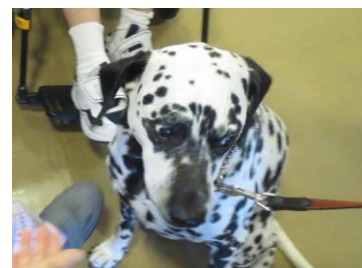


リハビリテーションや
意欲に影響

ボランティア犬



スタッフ犬ジョージ



< 集団セラピー > (毎月2回)

- ・ 一度に多数の対象者の参加が可能
- ・ 動物と触れ合うことにより
情緒的安定、QOL向上に期待
- ・ 現在4頭のセラピー犬が活躍中
- ・ 地域のボランティア活動

< 個別セラピー > (週1回程度)

- ・ 対象者の状況やニーズを把握した
うえで個々の改善目標に合わせて活動
- ・ 対象の心や身体のリハビリテーション
に期待
- ・ 当院のスタッフの一員として活動

方法

- ① ドッグセラピーについて学習会開催
(得られる効果、方法、注意点)
- ② セラピードッグ対象患者・非対象患者を
選定
- ③ 対象患者にセラピードッグとのふれあい時間
の設定 (1回/週・20分程度)
- ④ 観察表を用い対象者の様子の観察・評価
- ⑤ FIMの評価 (セラピー導入前・後)
- ⑥ 多職種合同カンファレンスの開催
(リハビリ訓練時、犬とふれあう様子の情報共有)

観察項目

発語・会話状況 (非常に多い 5 ⇄ 1 変わらない)

笑顔・感情表出 (非常に多い 5 ⇄ 1 変わらない)

記憶の状況(名前を憶えている 5 ⇄ 1 覚えていない)

リハビリ意欲・動き(非常に良い動きがある 5 ⇄ 1 変わらない)

覚醒状況 (非常に良い 5 ⇄ 1 変わらない)

ドックセラピー観察表

観察者情報		観察日時		観察場所		観察対象者		観察者	
氏名	職名	年	月	日	時間	病室	患者氏名	年齢	性別
観察内容		観察項目		観察結果		観察者		観察者	
① 発語・会話状況		② 笑顔・感情表出		③ 記憶の状況		④ リハビリ意欲・動き		⑤ 覚醒状況	
⑥ 介入前の状況		⑦ 発語・会話状況(前)		⑧ 笑顔・感情表出(前)		⑨ 記憶の状況(前)		⑩ リハビリ意欲・動き(前)	
⑪ 覚醒状況(前)		⑫ 観察項目		⑬ 観察結果		⑭ 観察者		⑮ 観察者	
⑯ 観察項目		⑰ 観察結果		⑱ 観察者		⑲ 観察者		⑳ 観察者	
⑳ 観察項目		㉑ 観察結果		㉒ 観察者		㉓ 観察者		㉔ 観察者	
㉕ 観察項目		㉖ 観察結果		㉗ 観察者		㉘ 観察者		㉙ 観察者	
㉚ 観察項目		㉛ 観察結果		㉜ 観察者		㉝ 観察者		㉞ 観察者	
㉟ 観察項目		㊱ 観察結果		㊲ 観察者		㊳ 観察者		㊴ 観察者	
㊵ 観察項目		㊶ 観察結果		㊷ 観察者		㊸ 観察者		㊹ 観察者	
㊺ 観察項目		㊻ 観察結果		㊼ 観察者		㊽ 観察者		㊾ 観察者	
㊿ 観察項目		㋀ 観察結果		㋁ 観察者		㋂ 観察者		㋃ 観察者	
㋄ 観察項目		㋅ 観察結果		㋆ 観察者		㋇ 観察者		㋈ 観察者	
㋉ 観察項目		㋊ 観察結果		㋋ 観察者		㋌ 観察者		㋍ 観察者	
㋎ 観察項目		㋏ 観察結果		㋐ 観察者		㋑ 観察者		㋒ 観察者	
㋓ 観察項目		㋔ 観察結果		㋕ 観察者		㋖ 観察者		㋗ 観察者	
㋙ 観察項目		㋚ 観察結果		㋛ 観察者		㋜ 観察者		㋝ 観察者	
㋞ 観察項目		㋟ 観察結果		㋠ 観察者		㋡ 観察者		㋢ 観察者	
㋣ 観察項目		㋤ 観察結果		㋥ 観察者		㋦ 観察者		㋧ 観察者	
㋨ 観察項目		㋩ 観察結果		㋪ 観察者		㋫ 観察者		㋬ 観察者	
㋭ 観察項目		㋮ 観察結果		㋯ 観察者		㋰ 観察者		㋱ 観察者	
㋲ 観察項目		㋳ 観察結果		㋴ 観察者		㋵ 観察者		㋶ 観察者	
㋷ 観察項目		㋸ 観察結果		㋹ 観察者		㋺ 観察者		㋻ 観察者	
㋼ 観察項目		㋽ 観察結果		㋾ 観察者		㋿ 観察者		㌀ 観察者	
㌁ 観察項目		㌂ 観察結果		㌃ 観察者		㌄ 観察者		㌅ 観察者	
㌆ 観察項目		㌇ 観察結果		㌈ 観察者		㌉ 観察者		㌊ 観察者	
㌋ 観察項目		㌌ 観察結果		㌍ 観察者		㌎ 観察者		㌏ 観察者	
㌐ 観察項目		㌑ 観察結果		㌒ 観察者		㌓ 観察者		㌔ 観察者	
㌕ 観察項目		㌖ 観察結果		㌗ 観察者		㌘ 観察者		㌙ 観察者	
㌚ 観察項目		㌛ 観察結果		㌜ 観察者		㌝ 観察者		㌞ 観察者	
㌟ 観察項目		㌠ 観察結果		㌡ 観察者		㌢ 観察者		㌣ 観察者	
㌤ 観察項目		㌥ 観察結果		㌦ 観察者		㌧ 観察者		㌨ 観察者	
㌩ 観察項目		㌪ 観察結果		㌫ 観察者		㌬ 観察者		㌭ 観察者	
㌮ 観察項目		㌯ 観察結果		㌰ 観察者		㌱ 観察者		㌲ 観察者	
㌳ 観察項目		㌴ 観察結果		㌵ 観察者		㌶ 観察者		㌷ 観察者	
㌸ 観察項目		㌹ 観察結果		㌺ 観察者		㌻ 観察者		㌼ 観察者	
㌽ 観察項目		㌾ 観察結果		㌿ 観察者		㍀ 観察者		㍁ 観察者	
㍂ 観察項目		㍃ 観察結果		㍄ 観察者		㍅ 観察者		㍆ 観察者	
㍇ 観察項目		㍈ 観察結果		㍉ 観察者		㍊ 観察者		㍋ 観察者	
㍌ 観察項目		㍍ 観察結果		㍎ 観察者		㍇ 観察者		㍈ 観察者	
㍉ 観察項目		㍊ 観察結果		㍋ 観察者		㍌ 観察者		㍍ 観察者	
㍐ 観察項目		㍑ 観察結果		㍒ 観察者		㍓ 観察者		㍔ 観察者	
㍕ 観察項目		㍖ 観察結果		㍗ 観察者		㍘ 観察者		㍙ 観察者	
㍚ 観察項目		㍛ 観察結果		㍜ 観察者		㍝ 観察者		㍞ 観察者	
㍟ 観察項目		㍠ 観察結果		㍡ 観察者		㍢ 観察者		㍣ 観察者	
㍤ 観察項目		㍥ 観察結果		㍦ 観察者		㍧ 観察者		㍨ 観察者	
㍩ 観察項目		㍪ 観察結果		㍫ 観察者		㍬ 観察者		㍭ 観察者	
㍮ 観察項目		㍯ 観察結果		㍰ 観察者		㍱ 観察者		㍲ 観察者	
㍳ 観察項目		㍴ 観察結果		㍵ 観察者		㍶ 観察者		㍷ 観察者	
㍸ 観察項目		㍹ 観察結果		㍺ 観察者		㍻ 観察者		㍼ 観察者	
㍽ 観察項目		㍾ 観察結果		㍿ 観察者		㍼ 観察者		㍽ 観察者	
㍿ 観察項目		㍽ 観察結果		㍿ 観察者		㍿ 観察者		㍿ 観察者	

症例 セラピードック介入患者

- 82歳 男性
- 診断名：脳梗塞
- 入院日：平成30年4月27日 同日リハビリ開始 F I M評価36点
- 5月23日よりセラピードック介入

セラピードック介入時状況

- 食事：経管栄養
- 左半身麻痺
- 転倒転落の危険行為あり、
- ベットセンサー使用
- 表情が乏しくリハビリ意欲にもムラがある



症例 セラピードック非介入患者

- 84歳 女性
- 診断名：腰椎圧迫骨折
- 既往歴：平成28年 脳梗塞（右半身麻痺）
- 入院日：平成30年4月26日

同日リハビリ開始 F I M評価56点

- 5月23日セラピードック評価開始

セラピードック評価開始時状況

- 食事：経口摂取 軽度むせこみあり

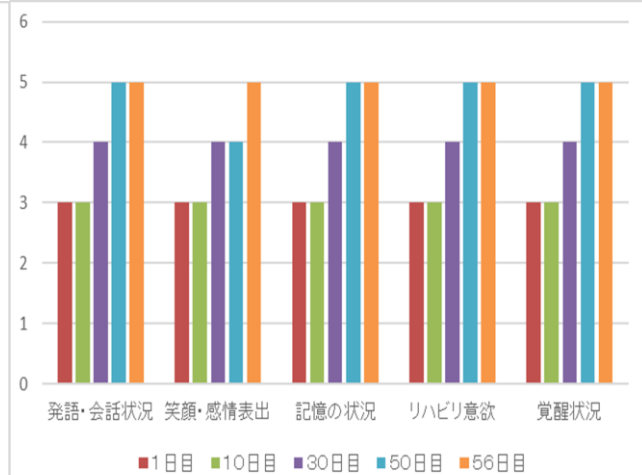
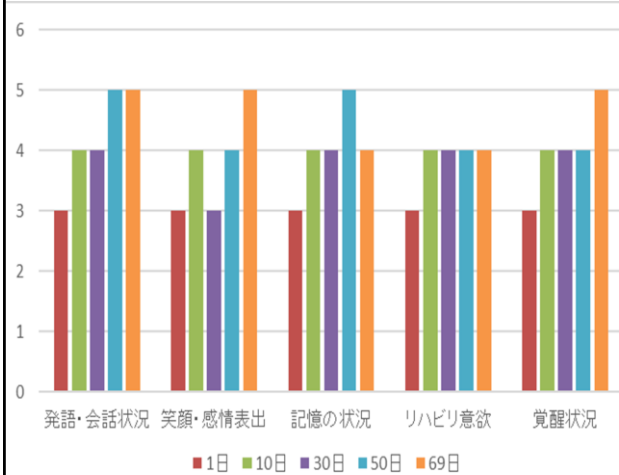


結果

セラピードック介入者・非介入者の比較

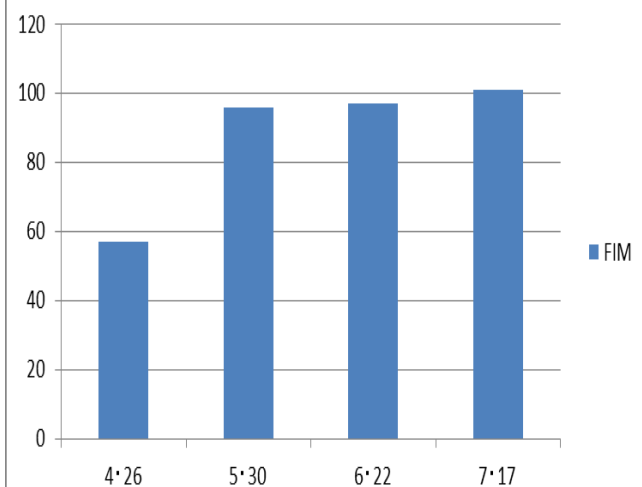
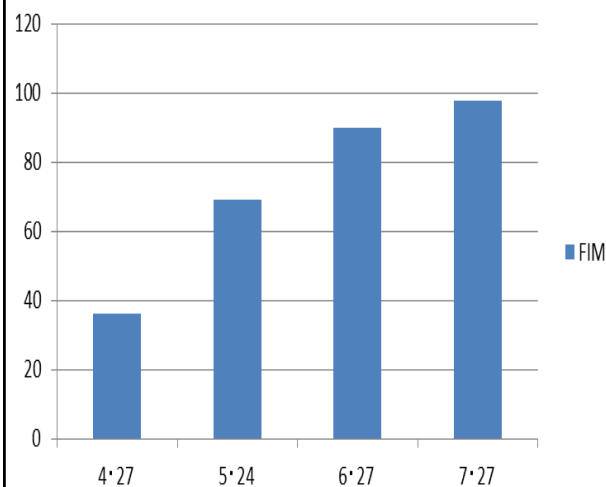
セラピードック介入

セラピードック非介入

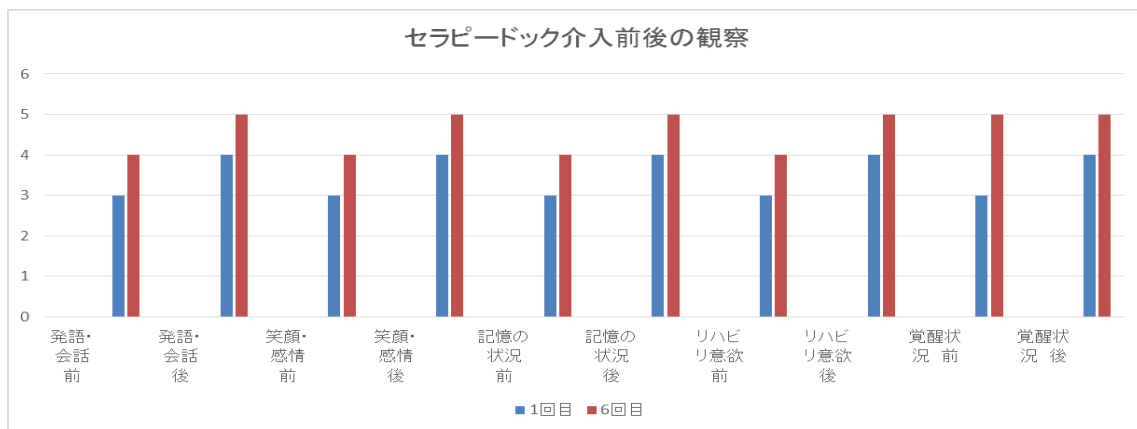


セラピードック介入者FIM

セラピードック非介入者FIM



セラピードック介入前後での観察の変化



考察

ドックセラピー 生理的效果 心理的效果

社会的効果

生理的效果

セラピードックにより

オキシトシン分泌増加

オキシトシン

幸せホルモン 愛情ホルモン

オキシトシン分
泌増加

愛情や信頼感が
増える

人との絆が増え
る

社会的な活動や
コミュニケーション増加

チームアプローチ

セラピードック介入

ドックセラピー介入
前後で観察項目点数
が増加

オキシトシン増加

リハビリテーション
意欲向上 機能回復

早期退院



おわりに

セラピードックによるふれあい



リハビリテーションの意欲に影響



今回は検証期間も短く効果の検証に十分なデータも得られなかった



活動の継続

ご清聴ありがとうございました



チームアプローチによる退院支援を目指して ～セラピードッグによる効果検証～

○志賀 康弘・菊田 美保子・橋本 明子・内田 順子・
山田 祥子・岸下 結花・森松 静・進藤 晃

【はじめに】

ドッグセラピーは、犬と触れ合うことでストレスの緩和、精神的な落ち着きなどの癒しの効果や活動性の向上を促すことを目的として行われる。当院回復期リハビリテーション病棟は、集中的なリハビリテーションにより運動機能の向上による退院支援を目指している。患者やその家族に安らぎを与える目的でセラピードッグによる集団セラピーと訪問セラピーを実施している。セラピードッグによるふれあいを重ねる中で、ふれあいを持った患者とふれあいを持たない患者でリハビリテーションや意欲に影響を与える症例がみられたのでここに報告する。

【方法】

- ・セラピードッグの効果について学習会開催
- ・セラピードッグ対象患者・非対象患者を選定
- ・対象患者にセラピードッグとのふれあい時間の設定
- ・観察表を用いた患者の様子（セラピードッグ実施時の表情・動作・発語の評価）
- ・多職種合同カンファレンス開催

【考察】

セラピードッグとのふれあいを持った患者には、リハビリテーションの意欲向上変化がみられた。入院に伴い高齢者は、活動性や意欲が低下し会話や表情の変化が乏しくなることがある。コミュニケーションの機会が減り、身体的な障害や機能低下なども重なり不安や苛立ち、不快な感情も現れやすくなり精神的に不安定な状態になることもある。入院生活の中でこのような機会を提供することにより、リハビリ意欲の向上が期待でき退院支援の足掛かりになるのではないかとと思われる。

【おわりに】

セラピードッグとのふれあいを重ねる中で、リハビリテーションの意欲に影響を与える結果を確認することができた。セラピードッグのふれあい機会を開始し、1年位になるが検証日数が短く症例も少ない。今後もこの活動を継続し効果を検証していきたい。